

令和7年度 徳島市南部中学校 総括学校評価

自 己 評 価						学校関係者の評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	活動計画	評価指標	評価	総合 評価	学校関係者の意見	
学校運営	・「子どもファースト」と「WITH」の精神に基づき、地域・家庭と連携した学校づくりを推進する。 ・「困っている教員を一人にしない」雰囲気をつくり、職員室での積極的な対話や OJT（職場内訓練）を通じて指導力を補い合う	・コミュニティ・スクールを通じた地域連携、HP やメールによる情報発信の強化、教職員のワンチーム化（OJT の充実）。 ・学校 HP やメール配信を活用し、「子どもファースト」の考え方や学校の様子をタイムリーに発信し、保護者との信頼関係を深める	・保護者の「教育目標や方針をわかりやすく伝えている」の肯定率	B(68%)	B	・教育目標を達成するために、具体的にどのような方策をもって取り組むのかを明確にすること。 ・生徒の性格も考慮し、「勉強することで何ができるようになるのか」「生活とどうつながっているのか」を意識させ、意欲を持たせること。 ・生徒自らが判断や決定を行えるような授業・活動の展開をつくること。 ・スピード感をもって振り返りと改善を行うこと。 ・プロフェッショナルを招聘し、若手教員の育成を図ること	・情報発信の強化：保護者の肯定率が B（教育目標の周知 68%、HP 等での発信 63%）に留まっているため、学校 HP やメール配信を活用し、教育方針や学校の様子をよりタイムリーに発信して信頼関係を深める。 ・教職員の資質向上：職員室での積極的な対話や OJT（職場内訓練）、メンター研修を通じて、教職員がワンチームで指導力を補い合える体制を構築する
			・保護者の「HP 等で情報を発信している」の肯定率	B(63%)			
			・教職員の「教育目標や方針の周知に取り組んでいる」の自己評価	A(100%)			
教科指導 学力向上	・「分かる喜び」を味わえる授業を工夫し、基礎学力と自ら考え行動する力を育成する。 ・自ら課題を見つけ、主体的に学びとろうとする生徒を育成する。	・教科部会の定期開催（学期 1 回）、授業研修ウィークの実施、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善。 ・授業評価を実施し、生徒からの評価を行う。 ・積極的なタブレットの利活用。	・生徒の「先生は工夫して授業を進めてくれている」の肯定率	A(89.8%)	B	・今後の具体的な学力向上策をどう進めるのか。 ・教師は授業において「演者」となり、生徒を惹きつけるキャラクターを演じるなどの工夫が必要である。	組織的な取り組み：校務分掌で学力向上担当を明確化し、教科部会の定期開催（学期 1 回）など、全校体制で改善を図る。 ICT の有効活用：生徒の「タブレット端末の有効活用」の肯定率が C（44%）と低いため、主体的・対話的で深い学びの視点から活用方法を見直す。 授業の質の向上：「分かる喜び」を味わえる授業研修ウィークの実施や、生徒による授業評価をフィードバックに活かす。
			・生徒の「タブレット端末を有効に活用している」の肯定率	C(44%)			
			・保護者の「教職員は『わかる』授業に努めている」の肯定率	B(65%)			
交通指導 生徒指導	・「凡事徹底」と「協和」の精神を重んじ、他者を尊重し規律ある生活を送る生徒を育成する。 ・「凡事徹底」の精神で交通ルールを遵守し、自他の命を尊重して正しく判断し、主体的に安全な登下校ができる生徒を育成する	・当たり前のことを継続する指導の徹底、PBS（ポジティブな行動支援）の導入、外部人材の積極的な活用。 ・基本的な交通マナーの徹底：ヘルメットの着用、並進の禁止、一時停止など、当たり前のことを日々継続して行う指導の実践と保護者による見守り活動。	・生徒の「学校に登校するのが楽しい」の肯定率	A(79.9%)	A	・ヘルメットの着用が徹底されていることを評価。 ・注意を受けた生徒が「すみません、します!」と素直に返事ができる態度は好ましい。	凡事徹底の継続：挨拶、清掃、交通ルールの遵守（並進禁止、一時停止等）など、当たり前のことを日々継続して行う指導を徹底する。 ポジティブな支援：PBS（ポジティブな行動支援）を導入し、望ましい行動への称賛を通じて規律ある生活習慣を育成する。
			・生徒の「相談できる先生がいる」の肯定率	A(78.9%)			
			・生徒の「交通ルールを守っている」の肯定率	A(94.6%)			
			・教職員の「温かい言葉がけや仲間作りをしている」の自己評価	A(97%)			
環境美化 給食指導 保健指導	・基本的な生活習慣の定着を図り、自らの健康に関心を持ち、根気強く努力する生徒を育成する。 ・整理整頓と清掃を徹底し、潤いと活気のある教育環境を整備する。	・健康教育の推進、食育を通じた望ましい食習慣の形成、心身ともに健康な体づくりの奨励。 ・「凡事徹底」の一環としての清掃指導、施設・備品の適切な管理、環境愛護の精神の育成。	・生徒の「規則正しい生活をしている」の肯定率	A(77.1%)	A	・しっかり食べて心身ともに成長してほしいという願いがある。 すべての項目で高い結果（生徒の清掃活動肯定率 93%など）が出ていることを評価している。	環境整備と健康教育：「凡事徹底」の一環としての清掃指導や、食育を通じた望ましい食習慣の形成を継続し、潤いのある教育環境を維持する
			・生徒の「清掃活動に取り組んでいる」の肯定率	A(93%)			
			・教職員の「現場で清掃の手順や方法を指導している」の自己評価	A(97%)			

<p>生徒会活動 キャリア教育 図書館教育</p>	<p>・未来への希望を持ち、志高くしなやかに未来を生き抜く力を育成する。 ・自ら考え主体的に行動することで、より良い学校生活を共に創り出す生徒を育成する。</p>	<p>・自己の可能性を信じ、失敗を恐れず挑戦する態度の育成、将来の生き方を考える活動の充実。 ・行事の企画段階から生徒の意見を反映させ、自ら考え行動する機会を確保する。 ・子供目線の図書室の整備</p>	<p>・生徒の「年間読書冊数」の分布（10冊以上の割合など） ・生徒の「将来の職業に関心をもっている」の肯定率 ・生徒の「生徒会行事や専門委員会の活動に参加している」の肯定率</p>	<p>C(33.9%) B(67.1%) A(74.7%)</p>	<p>B</p>	<p>・学習と生活が結びつく工夫を行い、将来を見据えた生徒を育成してほしい</p>	<p>読書意欲の向上：年間読書冊数10冊以上の割合がC(33.9%)と低い ため、子供目線での図書室整備を進める。 キャリア教育の充実：職場体験学習の実施や、多様な職業人を講師に招くなど、将来の生き方を考える機会を増やす。 生徒の主体性育成：学校行事において生徒会が主体となる場面を増やし、企画段階から生徒の意見を反映させる。</p>
<p>特別支援教育 道徳教育 人権教育</p>	<p>・「命を大切にできる心の教育」を中核とし、誠実で豊かな情操をもつ生徒を育成する。 ・生徒・保護者のニーズを把握し、個に応じた最適な援助・支援を行う。</p>	<p>・学年ごとの大研・小研の実施、相手を思いやるコミュニケーション能力の育成、自律の精神の涵養。 ・PBSを活用した望ましい行動への称賛、個別の教育支援計画等の活用、専門機関との連携強化。</p>	<p>・生徒の「友だちの良さをみつけたり気持ちを考えて話したりしている」の肯定率 ・生徒の「自分には良いところがある（自己肯定感）」の肯定率 ・支援の必要な生徒を把握し適切に支援している」の自己評価 ・教職員の「人権を尊重する雰囲気づくりができてい」の自己評価</p>	<p>A(91.8%) A(78.5%) A(99%) A(97%)</p>	<p>A</p>	<p>・自己肯定感(肯定率78.5%)や友人への思いやり(91.8%)は高く評価されており、総合評価は「A」となっている</p>	<p>個に応じた支援：生徒・保護者のニーズを把握し、個別の教育支援計画の活用や専門機関との連携を強化して、最適な援助を行う。 心の教育の推進：学年ごとの研究授業(大研・小研)を実施し、相手を思いやるコミュニケーション能力と自律の精神を育む</p>